

当院における 5 年間の主要菌種分離状況の推移

○高橋 美紀,内田 梓,岡崎 瑠海,平本 卓,細谷 隆一,矢部 茂季,町田 哲男
村上 正巳(国立大学法人 群馬大学医学部附属病院)

<はじめに>

当院では月 1 回開かれる感染対策委員会において、院内感染対策上重要と思われる 4 菌種 (*A. baumannii*、*S. marcescens*、*P. aeruginosa*、*MRSA*) の分離患者数を病棟別主要菌種検出症例数として報告している。今回、2008 年から 2013 年 6 月までの主要菌種分離状況の推移を検討したので報告する。

<方法>

菌種ごとに 2008 年 1 月から 2013 年 6 月までの月別検出症例数の比較を行った。また、毎月の検出症例数の合計を 12 で割った月平均患者発生数も比較した。

<結果>

菌種ごとの比較では 4 菌種とも、どの月に分離患者数が多いという一定の傾向は見られなかった。月平均患者発生数の比較では、*A. baumannii* が 2008 年では 3.5 人、2009 年 3.9 人、2010 年 8.5 人、2011 年 6.5 人、2012 年 3.1 人、2013 年 1.7 人であった。*S. marcescens* は 4.7 人 4.6 人、4.3 人、4.5 人、3.7 人、2.3 人であった。*P. aeruginosa* は 37.1 人、33.8 人、29.8 人、31.3 人、22.6 人、14.8 人であった。*MRSA* は 21.9 人、16.1

人、21.5 人、23.3 人、17.9 人、11.8 人であった。

<まとめ>

いずれの菌種の検出症例数も 2010 年 2011 年までは横ばいまたは増加であったが、2012 年より減少傾向を示した。当院感染制御部では、月 1 回の感染制御部運営委員会、感染対策委員会と院内巡視に加えて、週に 1 回の感染制御部ミーティングにおいて院内における感染対策上の問題点を検討し、巡視、指導を行うと共に必要に応じて講習会を開催し感染対策の啓発を行っている。最近の主要菌種症例数の減少は、その効果と考えられるが、引き続き行方を見守って行きたい。

細菌検査室 内線 8561